

「野洲川の取組方針」に基づく これまでの取組報告

野洲川地域安全懇談会

課題

想定し得る最大規模の降雨による洪水が発生した場合、野洲川が氾濫し、浸水が長期に及ぶ恐れがある。一方で、野洲川下流部は放水路として整備されており、氾濫に対する危機意識の低下が懸念される。

目的

野洲川の大規模水害に備えて水防災意識社会の再構築を行う

取組概要

- ・野洲川地域安全懇談会および担当者会議を開催。

取組内容および結果

★ 第2回野洲川地域安全懇談会

- 【日時】 平成28年6月30日(木) 10:00~12:00
- 【場所】 湖南広域行政組合北消防署2階 多目的研修室
- 【議題】 (1)「野洲川の取組方針(案)」について
(2) 1,000万人の生活を守る『琵琶湖』の魅力を高める河川整備について



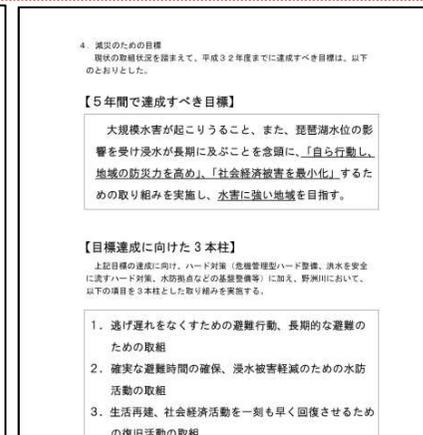
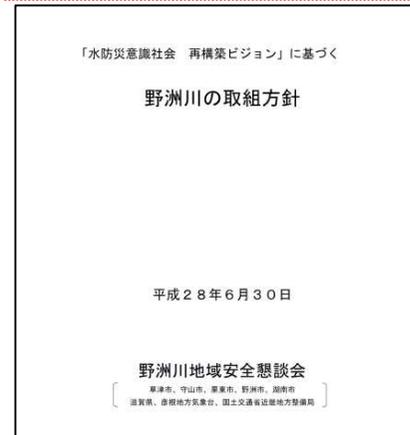
第2回野洲川地域安全懇談会

【平成32年までの5年間で達成すべき目標】

『大規模水害が起こりうること、また、琵琶湖水位の影響を受け浸水が長期に及ぶことを念頭に、「自ら行動し、地域の防災力を高め」、「社会経済被害を最小化」するための取り組みを実施し、水害に強い地域を目指す。』

★第3回懇談会までに実施した担当者会議

平成28年度	第1回	【日時】 平成28年11月28日(月) 【議題】 ・野洲川の取組方針のロードマップ(案) ・今年度および次年度以降の取組内容
	第2回	【日時】 平成29年1月24日(火) 【議題】 今年度の取組内容およびモデル市の決定
	第3回	【日時】 平成29年3月22日(水) 【議題】 今年度の取組報告
平成29年度	第1回	【日時】 平成29年4月20日(木) 【議題】 第3回懇談会議題等の確認、規約変更案の確認
	第2回	【日時】 平成29年5月16日(火) 【議題】 第3回懇談会議題等の確認



取組内容

地域住民と連携したサイクリングによる避難経路・野洲川周辺の現地調査

野洲川地域安全懇談会

課題

H 水害経験の無い世代の避難等に関する知識が十分でない。また、野洲川の氾濫に対する危機意識をもった住民が少ない。

目的

防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充

取組概要

★ 第1回サイクリングによる野洲川周辺の現地調査

【日時】 平成29年3月14日(火) 10:00~16:30

【場所】 野洲川沿川(守山市・野洲市・栗東市)

【参加者】 関係機関職員16名(守山市,野洲市,湖南市,琵琶湖河川事務所)

取組内容および結果

- ・取組方針では、住民との連携を想定しており、これに先立ち懇談会関係職員が調査を実施。
- ・住民を対象とした場合のコース設定やチェックポイントを順に確認。
- ・各ポイントでは、パネルを用いて野洲川の現状を説明。
- ・調査コースの全長約30km。
- ・調査ポイント(破堤箇所、廃川跡の公園、改修記念碑、落差工、堤防強化工事予定箇所)
- 参加者の感想
 - ・野洲川沿いを初めて走り、知らなかったことを知ることが出来た。
 - ・野洲川から見た比良山、三上山や新幹線が良かった。市民へアピールできるポイントになると思う。
 - ・自転車利用を前提とした場合の安全対策について、必要箇所を把握することが出来た。
 - ・今回のチェックポイントは石碑が多かったが、住民を対象とした場合には寺社仏閣などバリエーションを持たせる工夫が必要。
 - ・チェックポイント間の移動時に見ることができる景観もマップに記載すべき。

今後の予定

- ・次年度以降も引き続きイベントを開催し、住民意識向上のステップアップにつなげていく。

実施状況

自転車での調査状況



調査ポイントでの説明



意見交換の様子



▲ルートマップ



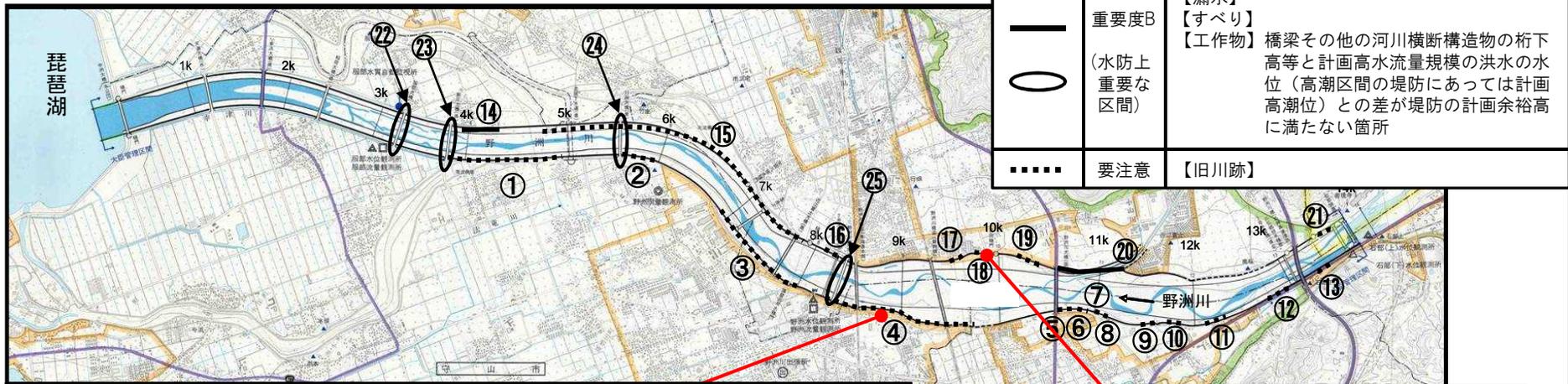
▲説明用パネルの例

取組内容	重要水防箇所の情報共有と関係市による共同点検(国管理区間)	守山市、栗東市 野洲市、湖南市 琵琶湖河川事務所
課題	K 隣接市の重要水防箇所に関する情報・認識が十分でない。	
目的	水防活動支援のための情報公開、情報共有	

取組概要

平成28年6月6日(月)に開催した「平成28年度 瀬田川・野洲川水防連絡会」において、重要水防箇所の共同点検を実施した。
 ・参加: 守山市、栗東市、野洲市、湖南市、琵琶湖河川事務所

実施状況



琵琶湖河川事務所

課題

A 浸水エリアに関する情報の認識や周知が不足している。

目的

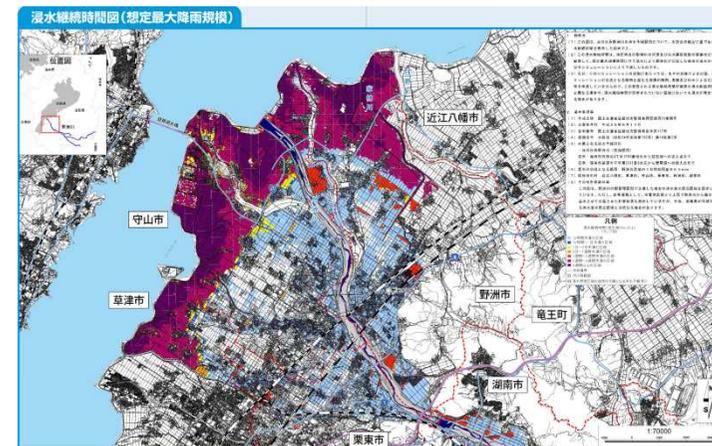
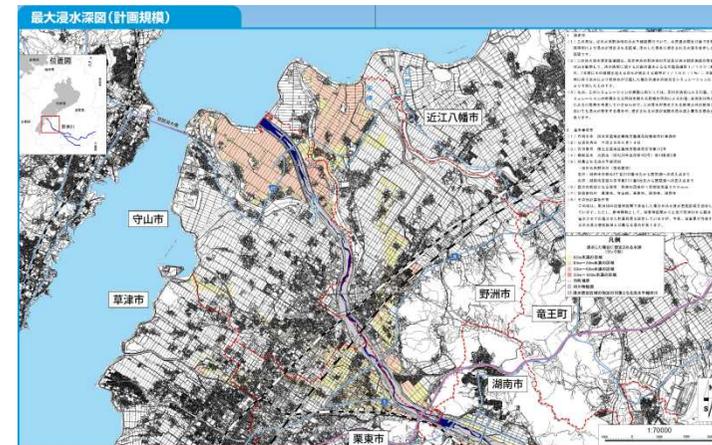
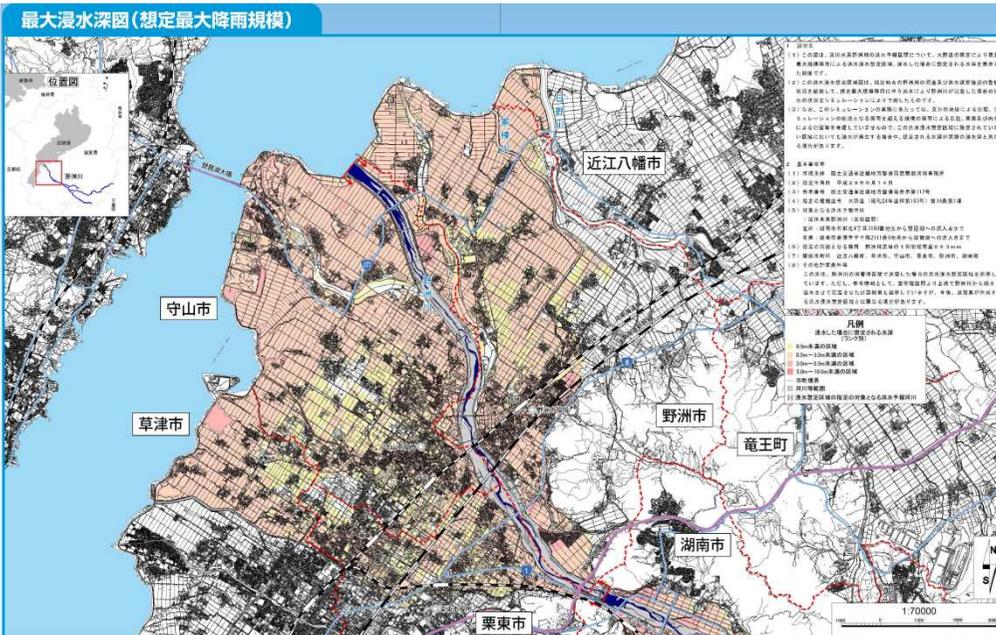
想定最大規模の外力を対象とした野洲川洪水浸水想定区域図の公表

取組概要

・水防法第14条に基づき、野洲川で想定しうる最大規模の降雨(24時間雨量・663ミリ)による氾濫シミュレーションを実施し、洪水浸水想定区域図の公表を行った。(平成28年6月14日)

取組内容および結果

- ・洪水予報河川である野洲川の洪水浸水想定区域図を平成28年6月14日に指定・公表。
- ・浸水した後に一定の浸水深(0.5m)に達してからその浸水深を下回るまでの時間を表示した浸水継続時間についても指定、公表。
- ・洪水時に家屋が流出・倒壊等のおそれがある範囲を示した洪水時家屋倒壊等氾濫想定区域も作成。



取組内容

防災に関する補助教材を活用した小中学校と連携した 防災に関する出前講座の取組

琵琶湖河川事務所

課題

H 水害経験の無い世代の避難等に関する知識が十分でない。また、野洲川の氾濫に対する危機意識をもった住民が少ない。

目的

防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充

取組概要

★ 第9回水辺の匠

【日時】 平成28年7月23日(土)、24日(日)

【場所】 アクア琵琶

【参加者】 約2,500名



「水辺の匠」とは・・・

WS琵琶の会を構成する県内外の団体・個人の方々とアクア琵琶案内ボランティアスタッフ、琵琶湖河川事務所スタッフにより運営し、小中学生や親子連れの方々が多く来館し、遊びながら河川について学ぶイベント。

取組内容および結果

- ・住民団体との連携イベント「水辺の匠」において、減災対策の啓発活動を実施。
- ・ハード対策として実施する堤防の浸透対策や危機管理型の堤防強化については、**堤防模型**を用いて必要性やねらいを説明。
- ・ソフト対策については、野洲川洪水浸水想定区域の**破堤点ごとの氾濫シミュレーション**を用いた氾濫形態のようすや、事務所ホームページの**防災ポータルサイト**における情報発信を説明。
- ・youtube公式チャンネルを活用した広報活動を紹介。
- ・参加者からは「決壊を防ぐために、すべての堤防を補強することは無理だと思う」、「浸水することを想定し、逃げるのが大切なんです」などの感想が得られた。

今後の予定

- ・平成29年度も引き続き、イベント「水辺の匠」において水防災に関する啓発活動を実施する。

実施状況

- ・パネル展示や堤防模型、動画を用いて水ビジョンや取組方針をPR



パネル展示



堤防模型を用いた堤防強化工法の説明



氾濫シミュレーションの動画を親子連れに説明



野洲川洪水浸水想定の説明



堤防模型を用いた堤防決壊メカニズムの説明

取組内容

防災に関する補助教材を活用した小中学校と連携した
防災に関する出前講座の取組

琵琶湖河川事務所

課題

H 水害経験の無い世代の避難等に関する知識が十分でない。また、野洲川の氾濫に対する危機意識をもった住民が少ない。

目的

防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充

取組概要

- ★ほたるのまち守山 第34回 野洲川健康ファミリーマラソン大会
【日時】平成29年3月5日(日)
【場所】野洲川歴史公園サッカー場(ビッグレイク)
【参加者】約880名(主催者発表)

取組内容および結果

- ・本大会は、野洲川の堤防や高水敷等がコースの一部で、旧野洲川北流の廃川跡のサッカー場がメイン会場となっており、**改修前の航空写真に興味を示される**参加者が多く見られた。
- ・また、**防災情報、安全利用、魅せる現場**などのチラシをビワイチすごろくと合わせて配布した。
- ・ビワイチすごろくを求めてテントに立ち寄られる方もおられ、短時間ながら、多くの参加者に広報を行うことができた。
- ・参加者からは、「野洲川の改修の歴史を初めて知った。**新しい川をつくるのは大変な工事だったと思う。**」、「昭和28年台風13号のことは記憶している。」、「**天井川のままで、大変危険。放水路が出来てよかった。**」、「**旧北流・南流の堤防がいつつくられたのか大変興味がある。**」などの感想が得られた。

今後の予定

- ・平成29年度以降も引き続き、野洲川沿川で開催されるイベントなどにおいて、出前講座やパネル展示を実施し、防災に関する啓発活動を行う。

実施状況

- ・パネル展示や航空写真を用いて水ビジョンの取組方針をPR



水ビジョンに基づく野洲川の取組方針の説明



守山市長の来訪



変遷の説明を聞く子供たち



自然再生事業の事業効果の説明



ビワイチすごろくを手にする子供たち

取組内容

防災対策や住民の避難行動の判断をより分かりやすくするため水位計やCCTVカメラの情報を提供(配信)

琵琶湖河川事務所
滋賀県

課題

F WEB等により各種情報を提供しているが、住民自らが情報を入手するまでに至っていない。住民の防災意識・知識が十分ではない。

目的

避難行動のための情報発信等

取組概要

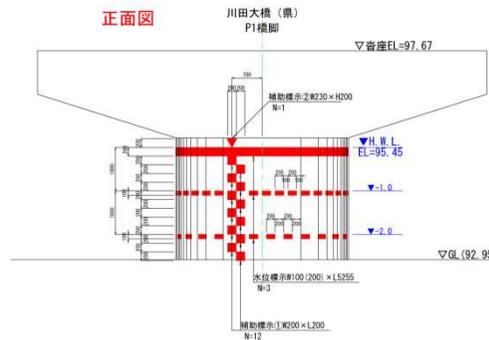
- ・川田大橋左岸高水敷の橋脚に水位を表示。

取組内容および結果

- ・野洲川(国管理区間)には、野洲水位観測所(河口から8.2km)と服部水位観測所(同3.2km)の2カ所で水位を観測し公表しているが、沿川にお住まいの方々から「台風などの洪水時に野洲川の水位が判るようにならないか」との声を頂いた。
- ・そこで、より多くの方々に普段から野洲川の水位状況に関心を持って頂き、それが防災意識の更なる高まりに繋がるように、野洲川横断橋の橋脚に水位標示を行うこととした。



【施工箇所位置図】



近景

課題

F WEB等により各種情報を提供しているが、住民自らが情報を入手するまでに至っていない。洪水時はアクセスが集中するため、HPが閲覧しにくくなる。

目的

避難行動のための情報発信等

取組概要

・洪水浸水想定区域図の公表、野洲川地域安全懇談会の開催に伴うポータルサイトの更新を行った。

取組内容および結果

野洲川の情報

お知らせ
6月14日 野洲川洪水浸水想定区域図を更新しました。

日時	服部	野洲	中部橋	三雲	柏島	水口橋	横田橋	北山橋	甲南大橋	多喜橋	佐山	前川橋	大山橋
12/31 22:50	0.68 m	-0.32 m	-0.15 m	-0.28 m	-2.74 m	-1.72 m	0.70 m	-0.25 m	0.47 m	-0.61 m	-0.21 m	-0.40 m	-0.23 m
12/31 21:50	0.68 m	-0.32 m	-0.15 m	-0.28 m	-2.74 m	-1.72 m	0.71 m	-0.25 m	0.47 m	-0.61 m	-0.21 m	-0.40 m	-0.23 m
12/31 20:50	0.68 m	-0.32 m	-0.15 m	-0.28 m	-2.74 m	-1.72 m	0.71 m	-0.25 m	0.46 m	-0.61 m	-0.21 m	-0.40 m	-0.23 m

野洲川 ライブカメラ

野洲川 河川管理用カメラ(CCTV)設置箇所

野洲川地域安全懇談会

平成27年9月関東・東北豪雨を契機として、全国各地でも同様の豪雨災害が発生し、防犯・減災等について情報共有し、野洲川の浸水を想定した安全なまちづくりについて意見交換を行うことを目的として設置したものです。

野洲川地域安全懇談会の開催に関する資料はこちら。

- 規約 (53KB)
- 委員名簿 (39KB)
- 取組方針 (188.630) (609KB)

洪水浸水想定区域図

野洲川洪水浸水想定区域図

野洲川洪水浸水想定区域図(想定最大規模)
野洲川洪水浸水想定区域図(計画規模)
野洲川洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)
家屋倒壊等氾濫想定区域(0.5m以上による)
家屋倒壊等氾濫想定区域(沿岸侵食による)

<参考資料>
浸水した場合に想定される水深の凡例を0.5m未満、0.5~1.0m未満、1.0~2.0m未満、2.0~5.0m未満、5.0m以上に変更した図です。

(参考資料) 想定最大規模降雨による浸水が想定される範囲
(参考資料) 計画規模降雨による浸水が想定される範囲

近畿地方整備局は、水防法第14条に基づき、洪水予報河川である野洲川の洪水浸水想定区域を平成28年6月14日に指定・公表しました。この洪水浸水想定区域は、想定される最大規模の降雨が降った際に浸水が想定される区域及び浸水した場合に想定される水深を示すもので、区域内には野洲川沿川の6市が含まれており、近畿地方整備局より各市の首長宛てに通知を行いました。

また、関係市の奥による避難のための立退き及び屋内での待避等の安全確保措置の指示等の判断に資するため、浸水した後に一定の浸水深(0.5m)に達してからその浸水深を

野洲川地域安全懇談会

全懇談会
1月13日(金)
防災センター

名簿(案)
緊急行動(記者発表資料)(抜粋)
27年9月関東・東北豪雨に係る被害及び現状等について
川に関する防災情報について
質問はトップから必ずお願いします

本サイトにアクセスすることで、雨量・水位・ライブカメラ等のリアルタイム情報や野洲川の洪水浸水想定区域図、各市のハザードマップ等を閲覧することが可能。

また、野洲川地域安全懇談会の情報も入手可能。

課題

F 防災情報が高齢者に伝わっていない。広報車や屋外スピーカによる正確な情報伝達が難しい。洪水時はアクセスが集中するため、HPが閲覧しにくくなる。

目的

避難行動のための情報発信等

取組概要

・大規模な洪水が野洲川で発生した場合には、浸水する危険性の高い地域の住民等の携帯電話やスマートフォンに対して洪水情報*の配信を開始(平成29年5月～)。

*洪水情報 氾濫危険情報(レベル4)及び氾濫発生情報(レベル5)の発表を契機として、流域住民の主体的な避難を促進するために配信する情報。

取組内容および結果

- ・野洲川沿川市の住民を対象に、プッシュ型洪水予報等の配信開始についての広報資料を作成した。
- ・市の広報誌やHPを通じて住民への周知活動を開始した。
- ・プッシュ型配信を行うことにより、地域住民や来訪者に野洲川の洪水情報を伝えることができ、迅速な避難行動に繋がることが期待される。

洪水情報のスマートフォン等への
配信をはじめます！

国土交通省 琵琶湖河川事務所

瀬田川・野洲川の洪水情報の配信開始について

近年、記録的な豪雨により、全国的に大規模な水害や土砂災害が頻発しています。また、気候変動の影響により、今後ますます洪水の発生頻度が高まることが予想されています。

そこで、瀬田川・野洲川で大規模な洪水が発生した場合に、市民の皆様携帯電話やスマートフォンに対して携帯電話事業者を通じて洪水情報を配信します。従来のTVやラジオ、防災無線等からの情報のほか、この洪水情報を活用していただくことにより、市民の皆様が自ら水害の危険性を察知し、自主的な避難に役立てていただくと考えておりますので、お知らせします。

また、琵琶湖河川事務所では、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」の再構築をめざして、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、滋賀県、気象庁彦根地方気象台と連携・協力してハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進しています。詳しくは、琵琶湖河川事務所のホームページをご覧ください。
<http://www.kkr.mlit.go.jp/biwako/bousai/kondankai.html>

*洪水情報とは、指定河川洪水情報の氾濫危険情報(レベル4)及び氾濫発生情報(レベル5)の発表を契機として、流域住民の主体的な避難を促進するために配信する情報です。

【配信の内容】

- 配信の開始日：平成29年5月1日(月)
- 配信する情報：瀬田川もしくは野洲川において河川氾濫のおそれがある(氾濫危険水位を超えた)場合の情報及び氾濫が発生した場合の情報を配信
- 配信エリアおよび対象の水位観測所：

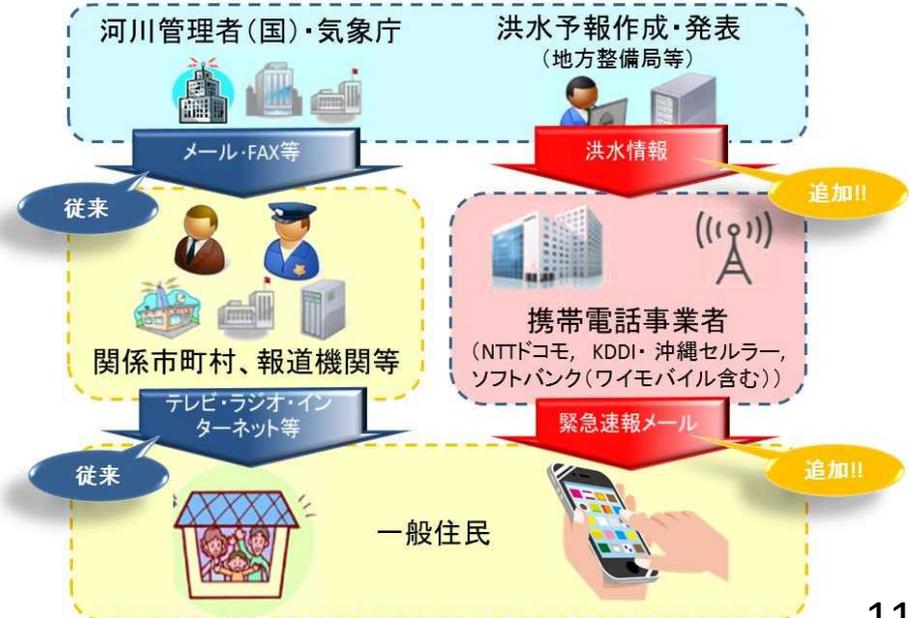
河川名	基準観測所(位置)	受検区間	配信対象市町村
瀬田川	関ノ津(滋賀県大津市)	左岸：瀬田川洗堰から大津市関津2丁目まで 右岸：瀬田川洗堰から大津市石山南郷町まで	滋賀県 大津市
瀬田川	鳥居川(滋賀県大津市)	左岸：大津市玉野浦字高砂から瀬田川洗堰まで 右岸：大津市瑞風1丁目から瀬田川洗堰まで	滋賀県 大津市
野洲川	野洲(滋賀県野洲市)	左岸：湖南市石部北4丁目から琵琶湖への流入点まで 右岸：湖南市菩提寺から琵琶湖への流入点まで	滋賀県 近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市

■配信内容(例)：野洲川の場合

【件名(例)】 河川氾濫のおそれ

【本文(例)】 野洲川で氾濫のおそれ野洲川の水位が上昇し、野洲水位観測所で避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防の低い箇所から越水し、浸水のおそれがあります。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。このメールは、近江八幡市・草津市・守山市・栗東市・野洲市・湖南市全域に配信しています。

プッシュ型情報配信のイメージ



取組内容	洪水予報文の改良と運用	琵琶湖河川事務所 彦根地方気象台
課題	F 住民の防災意識・知識が十分ではない。	
目的	避難行動のための情報発信等	

取組概要

・発表の対象区域や避難の切迫性等が市町村長や住民に確実に伝わる洪水予報文に改良した。(平成28年3月)

取組内容および結果

改善前の洪水予報文

○○川氾濫危険情報

(主文)
 ○○川の△△水位観測所(××市)では、○日○時○分頃に、氾濫危険水位(レベル4)に到達しました。川沿いの○○市、△△市、××市のうち、**堤防の無い、または堤防の低い箇所などでは氾濫するおそれがありますので、各自安全確保を図るとともに、市町村からの避難情報に注意してください。**



課題

- 氾濫の危険性、切迫性が伝わりにくい
- 避難すべき地区が予報文では分からない

改善後の洪水予報文

○○川氾濫危険情報

(主文)
 ○○川の△△水位観測所(××市□□)では、○日○時○分頃に、**避難勧告等の発令の目安となる「氾濫危険水位(レベル4)」に到達しました。○○市、△△市、××市では、○○川の堤防決壊等による氾濫により、浸水するおそれがあります。市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとって下さい。**

課題

N 浸透に対する堤防強化の未整備区間がある。

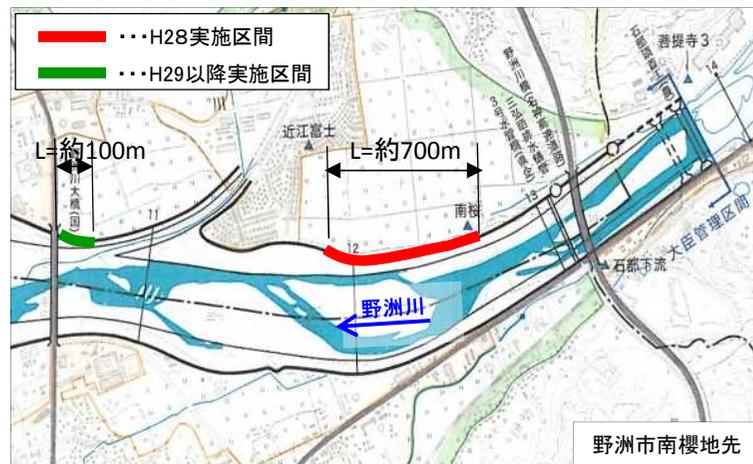
目的

洪水を河川内で安全に流す対策

取組概要

- ・洪水を河川内で安全に流すための対策として、野洲市南桜地区において、堤防法面の勾配を緩くし堤防を崩れにくくするための腹付盛土工等の堤防強化工事を実施。

取組内容および結果



【施工箇所位置図】



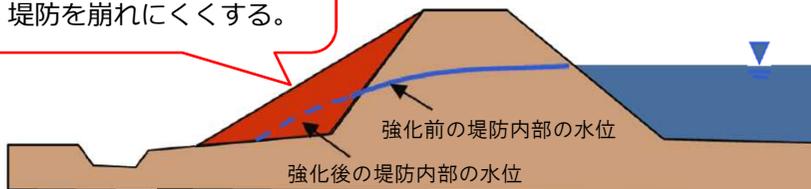
【腹付盛土工（施工前）】



【腹付盛土工（完成）】

腹付盛土

堤防法面の勾配を緩くし、
堤防を崩れにくくする。



【堤防強化（浸透対策イメージ図）】

取組内容

河道内樹木の伐採や河道内堆積土砂の除去等

琵琶湖河川事務所

課題

P 河道内樹木の再繁茂や土砂堆積が見られる。

目的

河川区域等の管理

取組概要

・洪水を河川内で安全に流すため、守山市服部町地先において樹木の伐採、守山市小島町地先において土砂の撤去を実施

取組内容および結果



【施工箇所位置図】



守山市服部町地先
【河道内樹木伐採状況】



【守山市小島町地先
堆積土砂撤去状況】

滋賀県

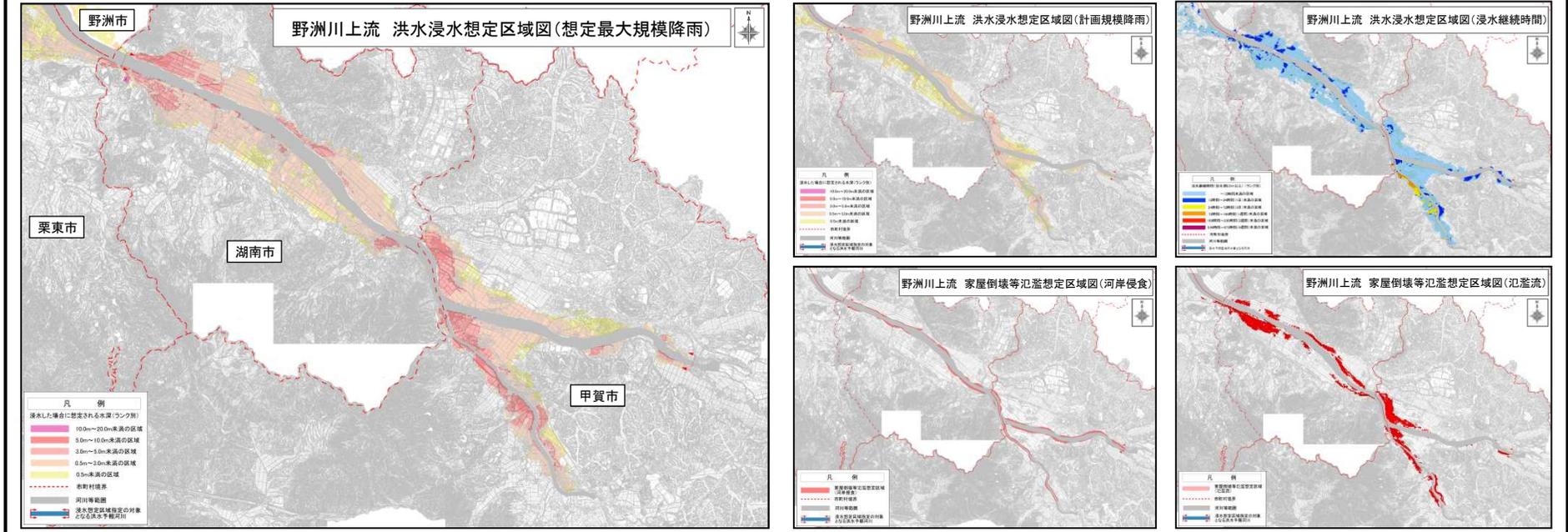
取組内容	県管理区間(野洲川上流、日野川、琵琶湖)における想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域および氾濫シミュレーションの公表	滋賀県
課題	A, B 県管理区間(野洲川上流、日野川、琵琶湖)における想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域および氾濫シミュレーションが公表されていない。	
目的	ハザードマップの作成・周知等	

取組概要

・平成28年度は野洲川上流・杣川および日野川について業務着手し、公表に向けた作業を進めている。

取組内容および結果

★野洲川上流・杣川・・・H28.9業務着手。H29年出水期前の公表に向けて作業中(以下の5ケースについて公表予定)。



★日野川・・・H29.1業務着手。H29年内の公表に向けて作業中。

今後の予定

・ H29年度は琵琶湖について業務着手し、H30年出水期前の公表を目指し作業を進める。

草津市

取組内容	ハザードマップの更新	草津市
課題	D ハザードマップに避難経路が定められていない(草津市除く)	
目的	想定最大規模洪水の洪水浸水想定区域を考慮したハザードマップの更新(避難経路の追加等)および周知(避難場所・避難経路等をハザードマップに明示)	

取組概要

・ワークショップを開催し、避難場所までの避難経路、危険箇所等について住民の意見をハザードマップに反映する。

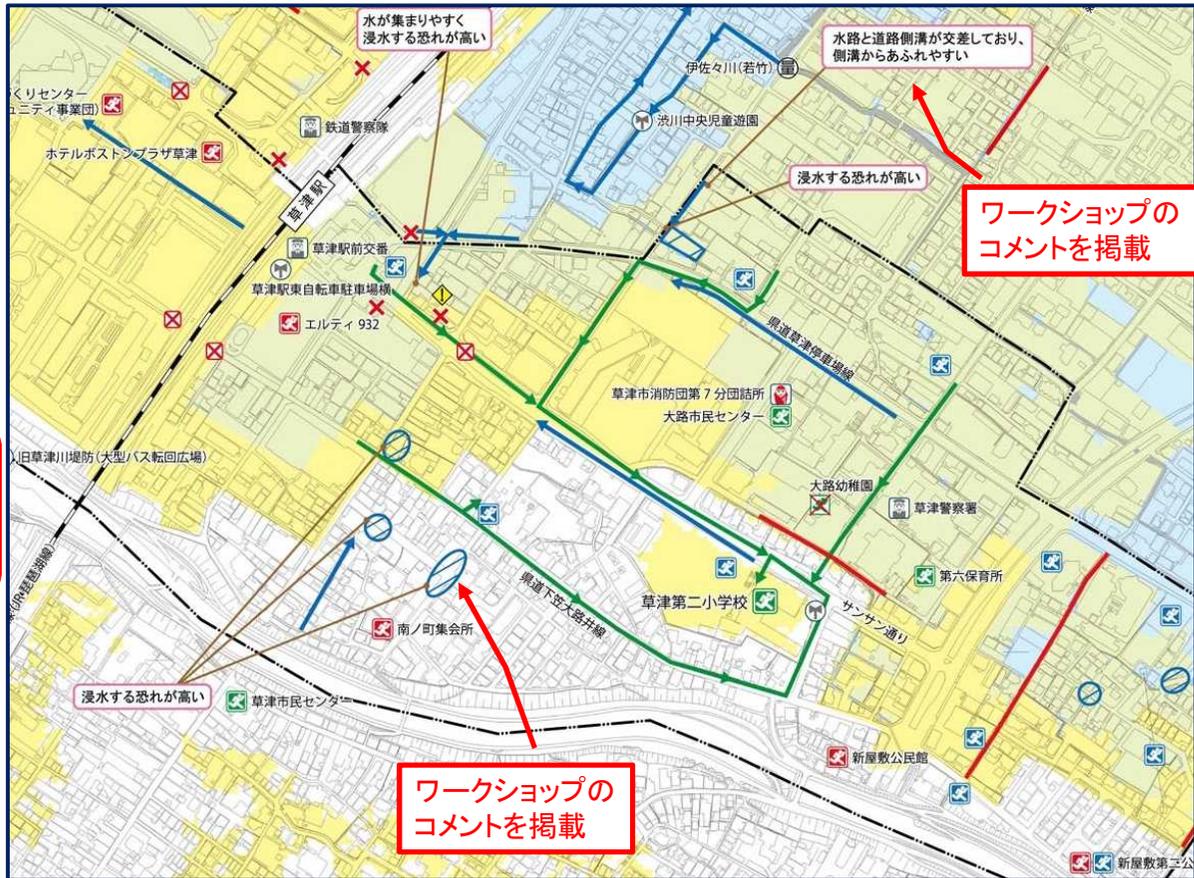
取組内容および結果

ハザードマップ (凡例)

凡例		
	洪水時避難場所	
	一次集合場所	
	福祉避難所	
	緊急時集合場所	
	洪水時避難不可	
	警察署・交番	
	消防署・消防団	
	ヘリポート	
	アンダーパス	
	注意する箇所	
	他より早く浸水する場所	
	量水板	
	水に浸かりやすい場所	
	転落のおそれのある水路	

ワークショップの意見反映

(例/草津駅東口)



風景
ワークショップ



守山市

取組内容	防災に関する補助教材を活用した小中学校と連携した 防災に関する出前講座の取組	守山市
課題	H 水害経験の無い世代の避難等に関する知識が十分でない。また、野洲川の氾濫に対する危機意識をもった住民が少ない。	
目的	防災に関する啓発活動、水害（防災）教育の拡充	

守山市の自主防災組織の概要

■ 守山市の自主防災組織の概要

守山市では、70自治会すべてにおいて自主防災組織が結成されており、毎年、すべての自治会で自主防災組織が中心となり、防災訓練を実施されています。また、突然に見舞われる災害に備えて、自治会が保有している資機材等の点検、整備なども定期的に行っており、このような取組を通じて、市民の防災意識の高揚に努めていただいています。

取組概要

■ R-DIG訓練（守山市地震災害総合訓練）

【日時】

平成28年8月28日（日）

【場所】

中洲小学校

【参加者】

中洲学区5自治会の
自主防災組織、消防団、
消防署、市

【講師】

滋賀県流域治水政策室

【内容】

地域の河川における水害緊急対策と防災をテーマに『河川図上訓練（R-DIG）』を実施しました。野洲川の氾濫を想定し、危険が及んだ場合の行動指針や行政機関から発せられる情報や指示の種類、住民の対応等を学びました。



<取組の様子>

実施状況



- 滋賀県内における近年の水害の発生状況などの情報提供 後に、朝8時と夜8時にそれぞれ野洲川が破堤した場合を想定し、2グループに分かれて訓練を実施しました。
- 野洲川の水位の変動により行政から発令される「避難準備情報」や「避難勧告」、「避難指示」等の氾濫発生情報の確認や、地形の特徴や浸水状況を考慮した避難経路などの確認をしていました。

課題

I 水防技術の熟練者が少ない

目的

水防体制の強化（防災技術の習得者の確保）

取組概要

■水防技術の習得訓練（守山市地震災害総合訓練）

【日時】

8月28日（日）

【場所】

中洲小学校

【参加者】

中洲学区5自治会の自主防災組織、消防団、消防署、市

【訓練想定】



南海トラフ巨大地震を機に発生した揺れが滋賀県内の断層でさらに増幅され、守山市では震度6弱を観測。また、ゲリラ豪雨により、市内各地で家屋の浸水および地震による建物崩壊や道路陥没等の被害が続出した想定で守山市地震災害総合訓練を実施。

<事前説明の様子>

取組内容および結果

地元自治会の自主防災組織と消防署員、市職員総勢32名が水防訓練に参加し、土嚢づくりから、積み方の訓練を実施しました。

消防署員や市職員が中心となり、土嚢袋の結び方や積み方の手順などを実演しながら、自主防災組織の方々と協力して、水防工法の一つである「釜段工」づくりをしました。

実施状況



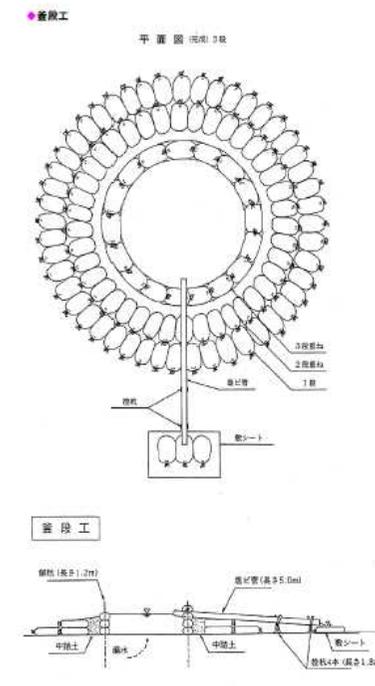
<土嚢づくりの様子>



<土嚢積みの様子>



<釜段工完成>



<釜段工設計図>

栗東市

取組概要

・野洲川のタイムラインの本格運用に向け、タイムラインの作成を行った。

取組内容および結果

・想定最大規模洪水における野洲水位観測所の水位波形を整理し、タイムライン上の時刻を以下のように設定。

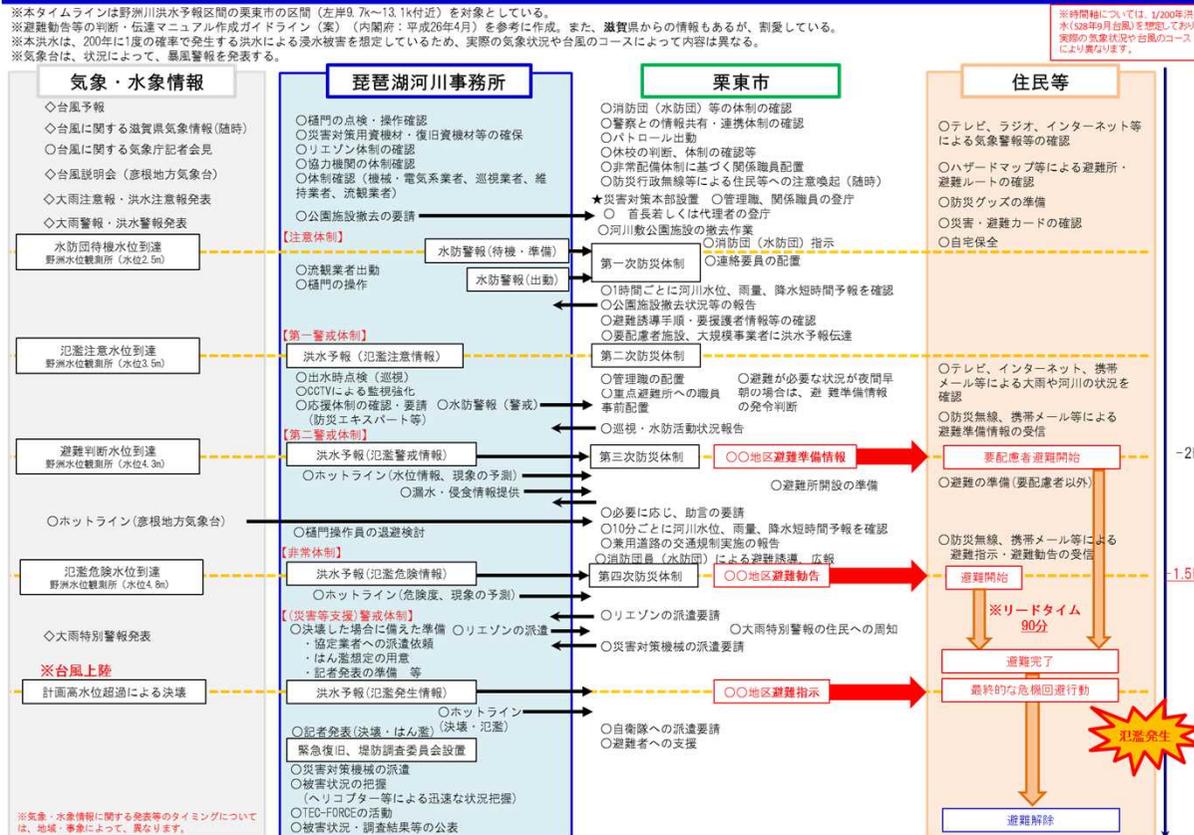
- 「-4H」 野洲水防団待機水位(2.5m)超過 →【水防団待機】
- 「-3H」 野洲氾濫注意水位(3.5m)超過 →【水防団出動】
- 「-2H」 野洲避難判断水位(4.3m)超過 →【避難準備・高齢者等避難開始】
- 「-1.5H」 野洲氾濫危険水位(4.8m)超過 →【避難勧告】
- 「0H」 野洲計画高水位(6.0m)超過 →【避難指示(緊急)】 ◆氾濫発生◆

今後の課題

近年において、野洲川の氾濫などによる災害がないため、市民へのタイムラインの周知をおこなったとしても、避難の必要性の意識付けが難しいため、日頃の訓練を呼びかける必要がある。また、夜間などの避難勧告等の発令は、周知徹底と避難行動の安全性の確保が必要であるため、発令時期の検討が必要。併せて、懇談会構成市とのタイムラインの整合をおこない、連携を図る必要がある。

台風接近・上陸に伴う洪水を対象とした、直轄河川管理区間沿川の市町村の避難勧告の発令等に着目したタイムライン(防災行動計画)(案)

基準水位見直し後



取組内容	防災に関する補助教材を活用した小中学校と連携した 防災に関する出前講座の取組	栗東市
課題	H 水害経験の無い世代の避難等に関する知識が十分でない。また、野洲川の氾濫に対する危機意識をもった住民が少ない。	
目的	防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充	

取組概要
<p>◎栗東市防災総合訓練</p> <p>【日時】 平成28年8月27日(土)</p> <p>【場所】 栗東市立葉山東小学校</p> <p>【参加者】 葉山東学区 12自治会(兼自主防災組織) 災害応援協定者、消防団、消防署、市議会、市</p> <p>【講師】 滋賀県流域治水室 栗東市建設部</p> <p>【内容】 野洲川を含む地域の河川の氾濫を想定したR-DIG(河川図上訓練)を実施しました。 また、水防訓練として土嚢工法を実施しました。</p>

今後の計画
<p>・栗東市防災総合訓練は、市内9小学校区を毎年順番に実施しており、平成27年度より展示型訓練から、学習型訓練に変更し、実施している。 今後の訓練においても、水害対応の訓練を引き続き実施する計画。</p>

実施状況
<p>・グループに分かれ、R-DIGを実施</p>  <p>・土嚢工法／簡易土嚢工法の訓練を実施</p> 

野洲市

取組内容	自主防災組織の活用・強化	野洲市
課題	C 自主防災組織を全自治会に組織できているものの、各自主防災組織でリーダーとして活動いただくに当たり、その心構え、災害時の初動対応の基礎知識の習得が必要である。	
目的	自主防災組織のリーダーを育成し、地域の自主防災力の更なる向上を図る。	

取組概要

- 第1回自主防災組織リーダー研修会
 - 【日時】 平成28年5月15日(日)午前9時30分～12時
 - 【場所】 野洲市総合防災センター
 - 【参加者】 103名
 - 【研修内容】
 - 1) 講義等
 - ① 問われる住民の防災力(DVD鑑賞)
 - ② 災害発生時の初動活動について
 - ③ 一時避難所等について
 - 2) 訓練
 - ① 自主防災組織運営シミュレーション訓練(5班編成)

- 第2回自主防災組織リーダー研修会
 - 【日時】 平成28年7月10日(日)午前9時30分～12時
 - 【場所】 野洲市総合防災センター
湖南広域消防局東消防署
 - 【参加者】 110名
 - 【研修内容】
 - 1) 自主防災専門研修
 - ① ブース 消火編
 - ② ブース 救出・搬送訓練
 - ③ ブース 応急処置訓練

取組内容および結果

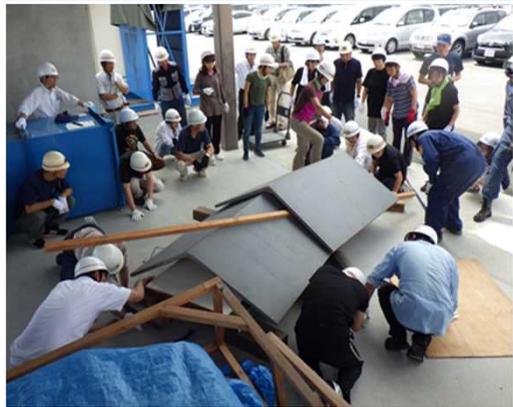
- 第1回目研修会
 - ⇒ DVDや講義により、災害時の初動対応の基礎知識を習得。また、自主防災組織の運営についてのシミュレーション訓練によりリーダーとしての役割、認識を自覚していただいた。
- 第2回目研修会
 - ⇒ 実践型の研修により、知識、技能を習得

実施状況

第1回自主防災リーダー研修会



第2回自主防災リーダー研修会



課題

E 大規模水害時等における市、消防及び消防団の通信手段において、風水害や捜索活動等における有効な情報伝達手段と情報収集に適した無線機器の整備が必要である。

目的

発災時に消防団等が、連絡を迅速かつ円滑に行える無線機器を整備する。

取組概要

- ・消防団に対して、野洲市内全域で交信可能なMCA無線の整備により、初動情報の共有と迅速な召集可能とするともに、大規模な広域災害に備え、湖南4市での交信を可能とする設定を行った。
- ・また、災害現場など限られた範囲(交信距離約1~2km)で有効な携帯用簡易無線及び車載型簡易無線機を併せて整備を行った。

取組内容および結果

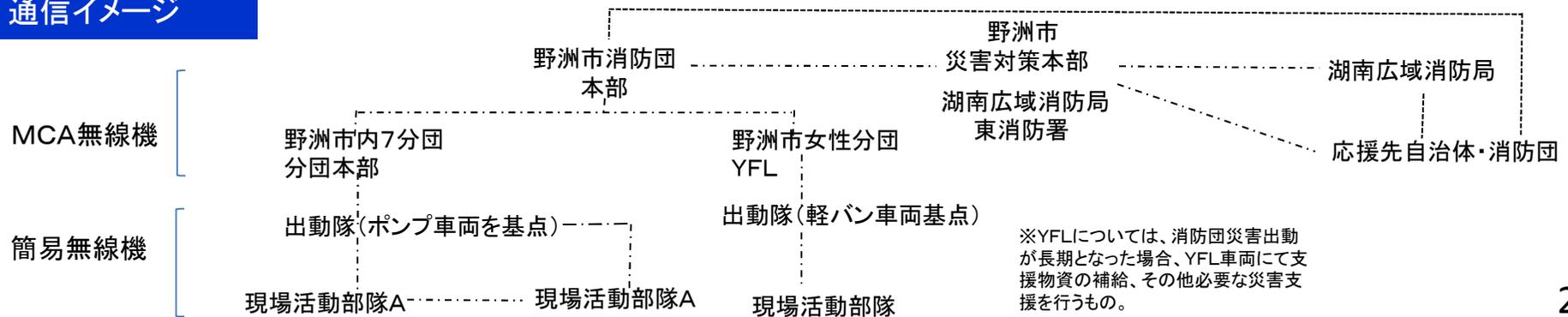
【整備概要】

- * デジタルMCA無線 2式(基地局総合防災センター、支局:市役所)
- * デジタルMCA無線 13台(団長、副団長、8分団)
- * 簡易無線 40台(団長、副団長、8分団部長クラス)
- * 車台型簡易無線機 9台(団指令車1第、ポンプ車7台、救助資材搭載車1台)

【成果と今後の課題】

- ・大規模水害時等に備え、市、消防及び消防団の通信手段において、迅速かつ円滑に行える情報通信環境の整備が図れた。
- ・今後、当該通信基盤を活用した訓練を実施し、広域的な災害にも対応できるようにする。

通信イメージ



湖南省

課題

水防技術の熟練者が少ない(行政主導で自主防災組織を立ち上げたが、平時・災害時にどのような活動をすればよいか具体的な内容がわからず、地域の防災意識が高まらない。)

目的

水防体制の強化(『自助』と『公助』の隙間を埋める『共助』の役割を担う自主防災組織の育成・強化)

取組概要

★湖南省総合防災訓練

【日時】平成28年10月2日(日)

【場所】湖南省内全域(各区・各まち協)

【参加者】約2200名

★防災士育成事業

【日時】平成28年8月27日(土)・28日(日)

【場所】湖南省共同福祉施設

【参加者】50名

★ふるさと防災チーム育成事業補助金

★出前講座

ふるさと防災チーム

市内全43区において組織化された自主防災組織。地域において消防団と連携した防災訓練や災害発生時に備えた資機材等の整備を行っている。

★防災士研修会

平成28年度の
地域の取組状況

- ① 総合防災訓練への参加
 - ・まち協・学区 4
 - ・区(自治会) 37
- ② 防災士登録者数
 - ・まち協・学区 28
 - ・区(自治会) 180
- ③ 出前講座 7件

実施状況

地域まちづくり協議会による避難所開設・運営訓練(総合防災訓練)



住民による避難者受付



ダンボール間仕切りの製作体験

防災士育成事業・研修会、出前講座



熱心に受講する参加者



普通救命講習



スキルアップのための研修会



HUG(避難所運営ゲーム)を体験

取組内容および結果

- ・総合防災訓練では、4つの地域まちづくり協議会が避難所開設・運営訓練を実施。住民を避難者と想定し、リアルHUGの成果を検証するとともに、課題の洗い出しも行われた。
- ・平成24年度から5カ年計画で防災士を養成。地域防災リーダーとしての防災訓練の実施や住民の防災意識向上に尽力されている。
- ・各区の自主防災組織の充実のため、防災用資機材整備に要する経費を補助金として交付。資機材を活用した訓練を実施。
- ・地域住民の防災意識向上、水防に関する知識・技能習得のための出前講座、防災士のスキルアップのための防災士研修会等を開催。

今後の予定

平成29年度も引き続き、自主防災組織の総合防災訓練への参加、地域防災リーダーの育成等を図り、地域の防災意識向上に努める。 29

課題	I 水防技術の熟練者が少ない(近隣との協力体制等の備えや、防災組織への参加等、地域防災力の低下。)
----	---

目的	水防体制の強化(防災意識・技術向上および地域防災力の向上により水害に備える。)
----	---

取組概要
<p>★災害に備える土のう作り講習 【日時】平成28年6月5日(日) 【場所】湖南省夏見地先 【参加者】107名</p> <p>災害に備える土のう作り講習 毎年出水期前に地域住民(市内各区の代表者)および水防団(消防団)に対して行う講習会。本市では平成27年度より実施している。</p>

取組内容および結果
<ul style="list-style-type: none"> ・消防署指導による実技講習(土のう作成、積み土のう工法) ・土のうは非常に高い防御性・水防性を誇り、また河川・湖沼氾濫への対策だけでなく住居や店舗等への浸水被害を防ぐこともでき、様々な用途において使用可能である。 ・土のうを合計300袋作成。作成した土のうの一部は持ち帰ってもらい各地域の備蓄資材として利用してもらう。 ・参加者からは「数が必要になるため土のうの作り方はもっとみんなが知るべきだ。」、「土のうを効率よく迅速に作成し、積み上げる際には連携が重要だと感じた。有事の際しっかり役割を決めて行いたい。」などの感想が得られた。

今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き出水期前に実施予定。

実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・土のうの役割・使用する資器材・土のう作成方法等を説明。
 
<ul style="list-style-type: none"> ・全体を3班に分け、土のう300袋作成。作成後積み土のう工法について指導。
 
 